

資質向上を目指し自己を磨く

平成 29 年度京都市町村保健師協議会総会・研修会



京都市町村保健師協議会の平成 29 年度総会・研修会が 5 月 9、10 日の二日間にわたって本会で開かれた。9 日には 48 人の保健師が参加した。同協議会の井上祐子会長（京丹波町）が挨拶でこの 2 年間の会長職を振り返り「行政に働く保健師は、どこにいても、目指すべきものは同じ、社会保障制度が持続可能な地域社会づくりであるをつくづく感じるようになりました」と話した後、「近年、保健師はさまざまな分野に分散配置されるようになりましたが、配属場所、担当業務を超えた保健師間の連携・協働を図り、健康課題の整理などを行いながら、将来を見通した活動を実践する保健師としての資質向上を目指していくことが大切です。総会と二日間にわたる研修会を有意義なものにしていきたい」と述べた。

続いて同協議会顧問で立命館大学の松田亮三教授、京都府健康福祉部の千葉圭子統括保健師長が挨拶した後、議案審議に入り、平成 28 年度事業報告、歳入歳出決算報告、

29 年度事業計画案、歳入歳出予算案などが原案どおり承認された。また役員改選が行われ、会長に上村弘美（久御山町）、副会長に奥村友美（八幡市）、石津幸子（亀岡市）の三氏を新任した。この後、保健師に今春新規採用された新会員 17 人（2 人欠席）が紹介され、各自が保健師としての将来の夢や抱負を述べた。

午後からは京都ノートルダム女子大学の平野美保准教授が「相手に伝わるコミュニケーション～住民から信頼される保健師を目指して～」と題して講演した。

10 日は 49 人の保健師が参加し、やすらぎの森木村助産院の助産師、木村泰恵氏が「妊娠期から始まる子育て支援～開業助産師の立場から～」、Office アイム代表の森川あやこ氏が「心をつなぎ互いに絆を結びあう！～職場内をスムーズにするチームワークとコミュニケーション～」と題して講演した。いずれの講演も実践的で示唆に富む内容で、参加者はうなずきながら熱心にメモをとっていた。